

C—5 個人企業による商店街住まいの調査

東京家政大 吉田 芳子

1) 研究の目的

本学近くにある商店街の住まいについて昭和31年、ささやかな実態調査をいたしました。その後約9年を経た今日、商店街としては益々繁昌してきて驚くばかりです。それについて家庭生活の住まいのあり方の中にも何かの成長が見られるのではなかろうかとも考えられ、前回に準じた調査をいたしました。

2) 方法

先ず商店街の組合幹部の方々に依頼しその協力をいただけたためにできた次第であります。幹部の方々から商店街に呼びかけ学生4名（佐々木博子、藤原由比子、鈴木志津子、比田井敬子）の手をかり昭和39年2月上旬より調査表を配布し、中旬より下旬にかけてやっと材料を

収集することができました。

3) 成 果

調査表の収集が大変で最初の予想のようには進みませんでしたでしたが、大勢の方の中には、却って大変な好意を示して下さる方もいました。

大体のところ現在までの調査の結果としては商店街の繁昌ぶりに引きずられ、それら家庭内の生活ぶりも、忙しくはなっても快適に能率的に変化してきていそうな結果がでています。